

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2025年5月30日

事業ID:K0005-2401
事業名:2024年度支援事業(4月募集)
団体名:特定非営利活動法人こども・らぼ
代表者名:代表者 岡 武司 印
TEL:070-3789-4565
事業完了日:2025年5月27日

■契約時

事業費総額	:	400,000 円
自己負担額	:	774 円
助成金額	:	400,000 円

■箇所は「収支計算書」より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	400,774 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	774 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	400,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	0 円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。
なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

こども食堂の開催

(2)事業完了時の事業内容(実績)

期間:2024年8月5日~2025年5月27日
開催日数:計37回
利用者数延べ1588人(うち、こども1100人、大人478人)

(3)成功したこととその要因

立場や年齢を問わず、様々な人たちが集う場所として機能することができている。継続して利用してくれる人が多い。利用について制限を設けず、急な連絡や時間変更にも柔軟に対応してきた結果だと思われる。

(4)失敗したこととその要因

なし。

(5)事業内容詳細

b&g鳥取施設を会場としてこども食堂を実施する。
毎週火曜日に開催し、季節のイベント等も併せて行う。
b&g鳥取の卒業生をボランティアとして参加させる。

(1)契約時の事業内容

--

(2)事業内容の実施(完了)状況

--



(3)成功したこととその要因

--

(4)失敗したこととその要因

--

(5)事業内容詳細

--

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

--

(2)事業内容の実施(完了)状況

--



(3)成功したこととその要因

--

(4)失敗したこととその要因

--

(5)事業内容詳細

--

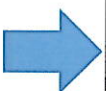
■事業内容4

(1)契約時の事業内容

--

(2)事業内容の実施(完了)状況

--



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

学校や地域住民への認知度拡大と事業理解促進。
b&g鳥取を卒業したこどもの生活状況を確認する。

(2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	476	文字数チェック	OK
-------	-----	---------	----

2024年7月23日から2025年5月27日の間に、こども食堂を37回開催し、延べ1588人の参加者があった。1回あたりの参加者数は約42人となり、10年間の活動の中で過去最大となった。口コミを中心に利用が増え、会場に入りきらない状態となることも多かった。利用者数が急激に増加していることから、認知度と事業に対する理解は広まっているものと思われる。また、これまでは子どもだけの参加が多かったが、親子での参加が増えた。過去に食堂を利用していたり、b&gを卒業後高校生以上となった子どもに有償ボランティアとしての参加を打診し、今年は4人が参加してくれることとなった。中学生になり、一度は連絡がつかなくなっていた子どももあり、久しぶりに再会することができた。活動の合間に家庭の状況や学校の様子などを聞き取り、生活状況に困難さが発生していないか確認することができた。うち一人については、高校卒業後の進路を相談する中で、家庭の状況が悪化していることを把握したため、鳥取市こども家庭センターや児童相談所と連携して改善に向けた支援体制を構築することができた。

3.事業実施によって得られた成果

元食堂利用者をアルバイトとして雇用することで、その後の家庭の様子、生活の様子を把握することができた。高校卒業後の進路について話をしたり、要対協に参加したりするなど、b&gを卒業しても家庭の問題が解決していない子どもについての支援を行うことができた。校区の異なる子どもたちが遊びを通じて交流したり、親同士、親とスタッフとの会話があたりと、参加者同士の交流の場として機能させることができた。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

行政から紹介のあった方の利用が継続しなかった。原因として、本食堂では子どもの利用者が多く、たくさんの子どもの間に囲まれて食事をする状況になじめない人は参加しがたいのではないかとと思われる。食堂を必要としている度合で言えば、行政から紹介された利用者の方が高いが、その人たちが継続的に参加できるようにするには、開催方法の変更が必要である。しかし、その方向にかじを切ると現在の利用者の参加制限をせざるを得ない状況になるため、実現は難しいと思われる。解決策として、同施設を利用しつつ、別の曜日にも対象者を分けた形で食堂を開催することができないか検討している。

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

完了報告書

(2)事業完了時の成果物名称

完了報告書



(3)未作成となった要因

なし

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

<https://fields.canpan.info/report/detail/33069>